

梶田叡一著「〈やる気〉を引き出す・〈やる気〉を育てる」教育フォーラム 50、金子書房 2012 年 8 月 25 日刊を読む

〈やる気〉を引き出す・〈やる気〉を育てる

—面白いから・やりがいがあるから・大事だから・やるべきだから—

1. (1)〈やる気〉の問題を現実的な水準で考えるため、我々は従来から、〈やる気〉の主要な心理的基盤として、「面白いから」「やりがいがあるから」「大事だから」「やるべきだから」という 4 種の気持ちの在り方を取り上げてきた。
(2)この 4 種は、同じように意欲的な取組みをもたらすと言っても、その内的基盤を全く異にする。いわば、〈やる気〉の基本的 4 タイプと言ってよいであろう。
2. (1)例えば「面白いから」やってみよう、という〈やる気〉の持ち方は、何物かとの出会いによって生じるものである。
(2)このため、出会う対象となるものが、まずもって一人ひとりの興味関心を牽き付けて止まないものでなくてはならない。
(3)課題の選び方、提示や説明の仕方、活動の内容等々を、そうした視点から十分に考えていかなければならない。
(4)また、一人ひとりの側には、土台として、「好奇心」と呼ばれるような、常に「面白い」ものを求めて止まない姿勢と、様々なものを「面白い」と見る感性とが育っていないとてはならない。
(5)こうした「好奇心」と「感性」を育てていくことも、重要な教育課題として念頭に置かなくてはならないであろう。
3. (1)「やりがいがある」ということで意欲的積極的に物事に取り組んでいくためには、そうした「場」なり「状況」なりが準備されていることが、まず必要となる。
(2)例えば学習課題がやさし過ぎても難し過ぎてもならない。
(3)今の能力をもって、頑張りさえすればやりとげられる、というものでなくてはならない。
(4)また、課題と取り組んでいる途上で、自分なりに「やれた!」「できた!」と感じられるよう、課題そのものの構造化も大切である。
(5)一人ひとりにとってこうした意味での適切妥当な課題の提示となっているかということについて、常に吟味検討が必要となるのではないだろうか。
(6)更には、うまくいった時に「認められる」「誉められる」ということも「やりがい」の大切な要素となる。
(7)この点でも、常に一人ひとりに目を配って、適時適切に視線を向け、言葉を掛け、承認し誉める、ということを中心掛けていかなければならないであろう。

4. (1)「大事だから」ということで頑張っけて取り組んでいく姿勢が身につくためには、教師の側から、当面の学習課題の意義を説くこと、学習そのものの意義を説くこと、そして克己勉勵の意義を説くこと、が不可欠となるのではないだろうか。
- (2)もちろん、その説き方は、一人ひとりの実感のレベルで受け止められ、納得となっていくものでなくてはならない。
- (3)これと同時に、学習者の側では、教師が説くところを真摯に受け止めて反芻し、自己内対話に繋げていく姿勢が望まれる。
- (4)「好きなことを、好きな時に、好きなように」と口にしてきた安易な「ゆとり教育的」教育姿勢・学習姿勢とはきっぱりと決別しなくては、このことは実現できるものではない。
5. (1)さて、最終的には、「やるべきことはやる」という実直な姿勢が身についていくことが望まれる。
- (2)学習課題は、その全てが必ず「面白い」わけでも、「やりがいがある」ものでも、「大事さがわかる」ものでもない。
- (3)しかし、やるべきことやらなくてはならないものである。
- (4)このためには、自分の中に潜む弱さを抑え自分に鞭打って努力するといった「刻苦勉勵」の姿勢が育っていく必要がある。
- (5)熊沢蕃山の言葉と伝えられる「憂きことの尚この上に積もれかし 限りある身の力試さん」といった勇猛な精神でもいいし、また道元の強調する「只管＝ただひたすらに」という、淡々と全てを受け入れ集中する対処姿勢でもいい、特別に「意欲の喚起(アラウザル)」等考えなくても当面の学習課題に取り取り組んでいけるところまでいければ素晴らしいではないだろうか。
6. <やる気>に溢れた人間として育つために
- (1)最終的には、その人の在り方自体が常にエネルギーに満ち溢れ、何事にも積極的に取り組む、といったものになっていったほしいものである。
- (2)楽なこと面白いことばかりを追い求める安易な(防衛的な)姿勢でなく、面白くなくても困難なことでもやるべきことはやるという積極的立ち向かいの(対処的な)姿勢が育っていったほしいものである。
7. 最後に、一人ひとりの日常生活のレベルにおいて、対処的な<やる気>を持続させるために大切な事項を、以下に掲げておくことにしたい。結局は、学校でも家庭でも、こうした卑近なところから指導していくべきではないだろうか。

こころの耕し(順斎)

- 一、体力が気力を生む
 - 早寝早起きをすること
 - よく歩くこと
- 二、気力が決心を育てる
 - 黙思黙想をすること
 - 我慢すること
- 三、対処する力が積極性を生む
 - 嫌なことに進んで挑むこと
 - やりかけたことは最後までやりぬくこと
- 四、積極的な人生観が道を切り開く
 - 先頭に立つ勇気を持つこと
 - 自分が燃えて周りを照らすこと

P.8 ～ 11

[コメント]

梶田叡一先生の教育論。「やる気を引き出す、やる気を育てる」にはどうしたらよいかが極めて具体的に述べられ、示唆に富む。是非、御一読を。

— 2014 年 10 月 28 日 林 明夫記 —